

## 自由論題セッション報告申込用 要約フォーマット

氏名(Name)

中原 寛子

所属・職(Affiliation)

大阪商業大学・専任職員（博士(学術)）

報告タイトル(Title)

地域農協におけるブリッジ人材の機能と位置づけー外国人雇用を支える通訳・調整の視点からー

キーワード(5 keywords)

ブリッジ人材、外国人雇用、地域農業、特定技能、人材育成

要約(Abstract)

### 1. 研究目的(Objective)

本研究の目的は、外国人雇用が進む日本の生産現場のうち、小規模な経営体に注目し、日本人と外国人の間の橋渡しを行う「ブリッジ人材」の役割と実態を明らかにすることである。地域農業支援の一環として外国人を雇用する農協を事例に、今後の受入れ体制や人材育成のあり方を検討する。

### 2. リサーチ・クエスチョン(Research question)

国内の小規模な生産現場、特に地域農業支援を目的に外国人を雇用する農協において、(1)現場で、異なる言語や異文化を背景に持つ従業員と働く上でどのような課題が生じ、経営者がブリッジ人材にどのような役割を期待しているのか、(2)実際にブリッジ人材がどのような行動・機能を果たしているのかを明らかにする。

### 3. 研究デザインと方法論(Research design/methodology)

本研究では、地域農業支援を担う農協を事例に、外国人雇用の現場におけるブリッジ人材の役割を明らかにする。通年雇用の特定技能1号の従業員をブリッジ人材と仮定し、管理職および外国人労働者への半構造化インタビューを実施した。分析には、言語的仲介、文化的仲介、組織内調整の三側面からなる枠組みを用い、多面的に実態を把握した。

#### 4. 発見事項(Findings)

調査の結果、ブリッジ人材の役割は特定技能 1 号に限らず、技能実習 2 号などの中堅層が後輩の通訳や文化的支援を担っていることが明らかとなった。生産現場が分散しているため 1 人の同行が難しく、複数の人材が補完的に橋渡しを行う体制が形成されていた。また、将来構想としては、組織内に長期に定着する者が高度な調整・指導を行う計画が見られた。現場ではブリッジ機能が複層的に分担されており、その存在は不可欠である。一方、近年の特定技能「試験ルート」の急増(堀口, 2024)により、こうした人材を内部で育成する機会が減少する可能性も示唆された。

#### 5. 理論的・経営管理上のインプリケーション(Theoretical/practical implications)

本研究は、これまで主に IT 分野で論じられてきたブリッジ人材に関する研究に対し、生産現場に着目し、その中でも地域農業における事例を取り上げた点で理論的貢献がある。経営管理上は、外国人材の定着・活用において、通訳や文化的調整を担う人材が現場内で複層的に存在していることを踏まえ、こうした人材の育成と役割の明確化が求められる。また、制度の変化がその形成に与える影響にも注意が必要である。

#### 6. 限界(limitations)

本研究は、これまで主に IT 分野で論じられてきたブリッジ人材に関する研究に対し、生産現場に着目し、その中でも地域農業における事例を取り上げた点で理論的貢献がある。経営管理上は、外国人材の定着・活用において、通訳や文化的調整を担う人材が現場内で複層的に存在していることを踏まえ、こうした人材の育成と役割の明確化が求められる。また、制度の変化がその形成に与える影響にも注意が必要である。

#### 7. 独自性と価値(Originality/value)

本研究は、これまで主に IT 職種に限定されて論じられてきたブリッジ人材の議論を、生産現場、とくに地域農業における外国人雇用の実態に適用し、現場で求められる多様で複層的な橋渡しのあり方を明らかにした点で独自性がある。特に、中小規模の組織における人材の定着と育成、さらには制度改正の影響を視野に入れた分析は、現場の受入れ体制を考える上で、一定の示唆を与えるものと考えられる。

※ スペースが足りない場合は、ご自身で追加してください。